

ロシアのウクライナ侵攻から1カ月

ロシアのウクライナ侵攻から約1カ月が経過した。この蛮行に対し西側諸国から経済制裁が行われているが、ロシアからもその報復が出ている。先日お知らせしたように、ロシアは日本を「非友好国」とみなし、200品目に及ぶ商品の輸出禁止を発表。即日実行した。

日本政府も対抗手段を発表した。ロシアへの貿易上の優遇措置である「最恵国待遇」を停止する方針を固めたものだ。当初は、水産物、及び木材製品にかかる関税率を引き上げることとしていたが、どうやら水産物は除外されるようだ。

この問題にまつわるさまざまな情報がメディアなどで流布されているが、あまり話題になっていない出来事を断片的に紹介したい。

- 1) ウクライナ、及びロシアで「プーチンの戦争」に対する批判が高まり、デモが行われているが、そのプラカードに書かれた戦争反対を表すロシア語の言葉“нет войне”。ロシア語では、否定語(нет=ないとかいいえとかという意味)の後の単語は格変化し、「生格」が充てられる。戦争は война で生格では войны になるはずだが、プラカードには войне と書かれている。これは「与格」に格変化したもので、「～に」という意味合いがある。つまり、“нет войне”とは“**No War**”ではなく、“**Not to War**”と解釈した方がいい。日本語では、「戦争がない」というよりも、「戦争に対して No を語りかけよう」という意味合いになるのだろうか。
- 2) ロシアの軍事車両などに“Z”の文字が付けられている光景をよく目にする。ロシア語で「～のために」を表す前置詞に за があるが、このロシア文字“з”は英字で“Z”。英語では for を意味する。よく使われる便利な文句である。勝利のためには“за победу”、ロシアのためには“за Россию”、平和のためには“за мир”、そして真実のためは“за правду”。ロシアがこの“Z”の文字を何を企図して記したのかは分からないが……。ウクライナ大統領のゼレンスキーの頭文字でない事だけは確かである。この符号をナチスのハーケンクロイツのような使い方だと思ってしまうのはわたしだけだろうか。
- 3) ウクライナが NATO 加盟国でないことから、西側諸国が軍事参加できないため、その代わりに武器などがウクライナに運ばれている。ゼレンスキー大統領は、職業軍人だけでなく、成年男子に銃を持たせロシアに対抗しようと呼びかけるが、これは逆効果だと考える。祖国防衛のため戦いたい、戦わせたいという気持ちは分からないことはないが、民間人の戦闘参加はロシアの無差別攻撃の口実につながるのだから、いかなるものかと思ってしまう。
- 4) 先日、ロシアのクリミア半島併合8年を祝う行事がロシアで行われた。少々の中継トラブルがあったものの、参加した市民の熱狂ぶりは異常なものだった。ウクライナ侵攻を正当化するのが主目的。ゼレンスキー大統領が、西側諸国の議会にオンライン参加し、各国の市民に支援を求めたり、自国の正統性をアピールする姿は、概ね高い評価を得ているようだ。タレントあがりの彼にとって、劇場型ともいえるこの手法は得意中の得意なのだろう。これを見るロシアはどう思うか。このゼレンスキーの行為に歯ぎしりし、前日の行事のように対抗心を高めて仕込みでもいいので、市民の熱狂を高めたいと思うだろう。

ロシア、ウクライナ両国に関係のあるトルコの調停をはじめ、停戦協議が進められている。ここまで及ぶと、お互いが一定の譲歩を行わない限り、停戦には至らないことは確実だ。どんな形であれ、まずは停戦することを両国首脳にお願いしたいところである。多くのウクライナ市民に大きな被害が出ている。これ以上の市民の死者を増やさないと、難民の増加に歯止めをかける意味でも。